

発刊日 令和7年11月2日

奈良体育学会会報

第97号 発行 奈良体育学会

事務局：奈良教育大学 笠次良爾研究室（〒630-8528 奈良市高畑町）
<https://nspehss.org/narajimukyoku@nspehss.org>

ご挨拶：奈良体育学会大会開催にあたって

奈良体育学会 会員の皆様へ

奈良体育学会会長 井上 邦子（奈良教育大学）

菊花の候、会員の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より奈良体育学会の活動にご理解ならびにご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、今年度は11月15日（土）に奈良女子大学にて学会大会を実施いたします。今大会におきましては、大学院生など若手研究者を中心として4題の一般発表が予定されております。限られた時間ではありますが日頃の研究成果を発表していただく貴重な機会となり、活発な議論がなされると期待しております。さらにシンポジウムでは「奈良マラソンの歩みと未来 — 市民スポーツイベントの持続可能な運営を考える」と題し、奈良に根付くスポーツイベントの現在と今後の展望について取り上げます。当日は、実際の大会の運営を支えてこられた方々にご登壇いただき、「ボランティア体制」「コロナ禍を経た運営の知見」「地域に根ざす仕組みづくり」などについて議論を深めていく予定となっております。どうぞご期待ください。

学会参加の事前申し込みについては一旦締め切らせていただいておりますが、当日参加は受け付けさせていただきます。会員は参加費無料となっておりますし、年に一度の会員交流、情報交換の場でもありますので、ぜひご参加をご検討いただきたいと存じます。

以上、簡単ではございますが、学会大会開催に向けての会長挨拶とさせていただきます。皆様と会場でお会いできるのを楽しみにしております。

令和 7 年度奈良体育学会大会のお知らせ

期 日：令和 7 年 11 月 15 日(土)

会 場：奈良女子大学 N 棟 302 教室（奈良県奈良市北魚屋西町）

※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。
お車での奈良女子大学への入構は禁止とさせていただきます。

共 催：奈良女子大学(健康なら 21 Step アップ事業)

後 援：奈良マラソン実行委員会

＜ご参加いただく方へ＞

参加費：会員 ：無料

会員外：一般 1,000 円、大学院生等 500 円、学部生 無料

事前参加申込期限：令和 7 年 11 月 7 日（金）17:00 ※当日参加も受け付けます。

☞ 学会大会事前申込ページ <https://nspehss.org/taikai/taikaiform>

☞ 令和 7 年度奈良体育学会大会専用メールアドレス(事務局お問い合わせ用)

nara-taikai@nspehss.org

☞ 郵便振替・口座番号：（当座） 0 1 0 0 0 - 2 - 2 8 1 6 9 <加入者名：奈良体育学会>

※事前登録参加、当日参加にかかわらず、必ず正門を通過し、入校時受付(守衛室前)、及び参加受付(N 棟 302 教室入口)をお済ませのうえ、会場へお入りください。

大会プログラム

- 12:30～ 受付（N 棟 302 教室入口）
- 13:00～13:20 令和 7 年度奈良体育学会総会
- 13:30～14:30 一般発表
- 14:40～16:40 シンポジウム（一般公開・無料）
- 17:00～18:00 懇親会



学会大会事前申込ページ
QR コード

＜発表者の方へ＞

- ・発表形式はすべて口頭発表とします。会場の PC (Windows のみ) をご使用の方は、USB メモリ等でデータを持参していただき、出来る限り一般発表開始前にファイルを PC にコピーし、ご自身で動作確認を行ってください。コピーされたデータは学会大会終了後に直ちに消去します。ご持参の PC をお使いになる方は、HDMI 経由での映写となります。Macintosh をご使用の場合は、PC をご持参ください。
- ・動画等を使用される方は、必ずご持参の PC にてご発表ください。なお、ご自身・会場の PC に限らず動画やアニメーションについての動作・映写等の保証は致しかねます。動画・アニメーションをお使いになる方は、正しく再生されなかった場合の対応をご準備ください。
- ・発表原稿をご使用される方は、念のためプリントアウトしたものをご持参ください(「発表者ツール」使用不可の場合のご対応です)。
- ・発表時間は 10 分、討論時間は 5 分です。円滑な進行のため、発表時間は厳守してください。
- ・発表開始後 9 分に 1 鈴、10 分(発表時間終了時)に 2 鈴、討論時間終了時に 3 鈴の合図をします。
- ・奈良体育学会研究年報掲載用抄録の提出をお願い致します【必須】。
令和 8 年 1 月 23 日(金) 17 時〆切です。
奈良体育学会研究年報用抄録フォーマット: <https://nspehss.org/kenkyu-nenpo>

<一般発表> 13:30～14:30 (発表時間 10 分、討論時間 5 分)

座長 立 正伸(奈良教育大学) 13:30～14:00

演題 1(13:30～13:45)

ダンスの振り写し時におけるダンス経験者と未経験者の視線分析研究

○小山 結美佳 (天理大学大学院体育学研究科)

キーワード：舞踊、視線研究、振り写し

要旨：ダンスの振り写し時におけるダンス経験者と未経験者の視線行動の違いを明らかにすることを目的とした。眼球運動測定装置を用いて、模範者の動きを観察する際の注視対象や注視時間を分析した結果、技能差による視覚的特徴が明らかになった。

演題 2(13:45～14:00)

移動視標の速度変化の有無がタイミング一致に及ぼす影響

○西面 智華 (奈良女子大学大学院)

キーワード：タイミング一致、運動制御、移動視標

要旨：本研究では、水平な台上を一定の軌道で移動する台車を用いて、移動視標に対するタイミングコントロールについて検討した。特に、移動視標の速度変化や停止の有無が、タイミング一致や動作に及ぼす影響について着目した。

座長 松井 良明(奈良工業高等専門学校) 14:00～14:30

演題 3(14:00～14:15)

現代台湾で息吹かれた「武徳殿」：保存・継承・活用に関わる人々の相互関係に注目して

○三宅 智子 (天理大学大学院体育学研究科)

キーワード：現代台湾、武徳殿、剣道実践

要旨：台湾に現存する「高雄市武徳殿」は、日本統治時代の建築物である。現在、その活用方法は武道、とりわけ剣道実践を主軸としている。それは、歴史的断絶と連続を織り交ぜながら、保存、継承、活用を担う人々によって台湾に「生きる武徳殿」となっている。

演題 4(14:15～14:30)

知識と実技の往還による主体的学びがフィジカルリテラシーに及ぼす影響 ―高等学校における「体づくり運動」の授業実践を通して―

○山口 裕士 (奈良教育大学教職大学院)

キーワード：フィジカルリテラシー、主体的な学び、体づくり運動

要旨：高等学校における体づくり運動「実生活に生かす運動の計画」の単位において、知識と実技の往還を重視した授業実践を行った。授業の前後でフィジカルリテラシーの変化を測定し、主体的な学びの促進が身体活動に対する理解や態度にどのような影響を及ぼすかを検討した。

<シンポジウム> 14:40～16:40

タイトル：奈良マラソンの歩みと未来 ― 市民スポーツイベントの持続可能な運営を考える

テーマ：市民マラソンを軸とした地域づくり・健康づくり・観光振興の可能性と、運営を支える人材・組織体制の課題を共有する。

趣 旨：

市民マラソンは健康意識の高まりから国内では年間およそ 90 大会が開催されている。しかしながら、コロナ禍以降、地方大会などで定員割れが相次ぎ、物価高を背景に大会運営は厳しさを増している。奈良県では、1981 年に創設された「奈良春日・大仏マラソン全国大会」を、フルマラソンを加えた「奈良マラソン」として 2010 年にリニューアルし、今年で第 16 回大会を迎える。

奈良マラソンは、単なる市民マラソン大会にとどまらず、市民の健康づくりやボランティア活動による市民参画と地域の交流、観光振興・経済効果といった多面的な役割を担ってきた。すなわち奈良マラソンは歴史文化都市における大規模イベントとして、運営の実務と社会的インパクトの両面で注目されてきた。本シンポジウムでは、奈良マラソンの事務局を支えてきた 3 名のキーパーソンにご登壇いただき、運営の実際と課題、そして今後の展望について語っていただく。特に「ボランティア体制」「コロナ禍を経た運営の知見」「地域に根ざす仕組みづくり」を柱に議論を深める。

シンポジスト：

林 潤（奈良マラソン実行委員会事務局次長(統括)・レースディレクター、(一財)奈良陸上協会理事・事業部長、飛鳥ハーフマラソン レースディレクター）

：奈良マラソン 15 年史

鷹田 やゆり（奈良マラソン実行委員会事務局長）

：人口減少社会における「奈良マラソン」の展望

野田 康彦（奈良県産業部産業創造課長、奈良マラソン実行委員会元事務局長）

：コロナ禍での奈良マラソン開催の経験

司会：

笠次 良爾（奈良教育大学、奈良マラソン救護本部長）

座長：

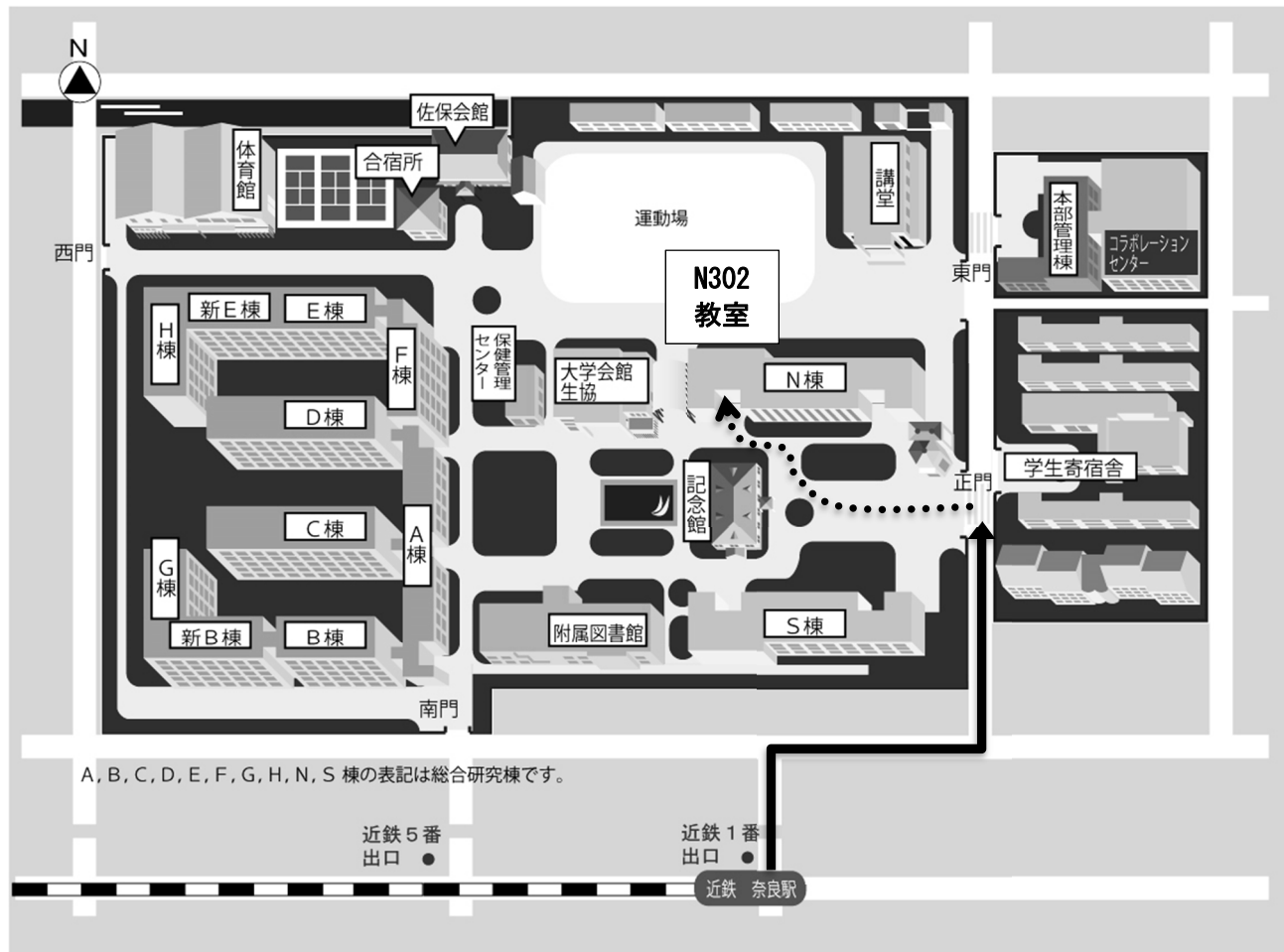
笠次 良爾、高橋 豪仁（奈良教育大学）

以上敬称略

<懇親会> 17:00～18:00

奈良女子大学へのアクセス

近鉄奈良駅（1 番出口）からマップ内の実線（—）で示した経路を進み、徒歩 5 分です。
正門からお入りください。大学構内マップ内の点線（…）で示した経路を進み、N 棟の入口（西側）から入って 3 階にお上がりください。



奈良体育学会事務局よりお知らせ

【重要】メールアドレスご登録のお願い

今後、学会からのお知らせは、原則として電子メールによる配信とさせていただきます。これまでに数回メールをお送りしていますが、いずれも届いていない方につきましては、別途、学会 HP から、または直接、学会事務局 (narajimukyoku@nspehss.org) まで、必ずメールアドレス登録のご連絡をお願いいたします。

【研究年報への原稿投稿のご依頼】

奈良体育学会では、会員の皆様からの「奈良体育学会研究年報」への投稿をお待ちしております。学会大会で発表していない論文も、「誌上発表論文」として掲載します。なお、筆頭著者は奈良体育学会会員資格を持つ者に限ります。研究年報は学会ホームページにおける電子データでの提供とし、配布を行わないこととさせていただきます。今年度より電子ジャーナルとしてオープン公開を行い、国会図書館に ISSN を登録します。このことに関連して、学会活動（会報等）は掲載せず、会報のみでの提供に変更いたします。会員の皆様にはホームページからダウンロードしていただくようお願い致します。

締切：令和 8 年 1 月 23 日（金）17 時

提出先：電子メール（添付ファイル）による。

奈良体育学会事務局 奈良教育大学 笠次良爾宛（E-mail: narajimukyoku@nspehss.org）

＜誌上発表論文書式＞

* A4 用紙、40 字×40 行、一段組、図表ともで 4～6 枚、上下左右の余白を 20mm としてください。（詳細は過去の奈良体育学会研究年報をご参照下さい。）

* 原稿は Word とそれを PDF 形式で保存した 2 種類のファイル（Word と PDF）にてご提出ください。原稿は、モノクロでご作成ください。また、原則として PDF ファイルに表示されている内容がそのまま年報に掲載されますので、ご提出の前に必ず体裁等をご確認ください。カラー表示が必要な方につきましては、PDF 版においてはカラーでの掲載が可能ですが、国立国会図書館等に収蔵する冊子版については原則としてグレースケールでの掲載となりますので、ご承知おきください。論文等は、奈良体育学会研究年報投稿規定ならびに体育学研究（日本体育・スポーツ・健康学会）投稿規定・投稿の手引きに準じてご作成ください。学生・大学院生の方は、必ず指導担当教員等の指導を受けてから投稿して下さい。

＜発表抄録書式（今年度の大会発表者用）＞

用紙 A4 で 1 枚（図表込み）、本文は 2 段組でお願いします。文字フォントは、タイトル 14 ポイント、氏名・所属 11 ポイント、本文は 9 ポイントで記載をお願いします。また、キーワード（9 ポイント）を所属と本文の間に 3 語で入れてください。なお、原稿作成見本および詳細は下記の URL にあります。その他の原稿の様式、提出方法、提出ファイルの種類等は＜誌上発表論文書式＞と同様です。

奈良体育学会研究年報用抄録フォーマット：<https://nspehss.org/kenkyu-nenpo>

日本体育・スポーツ・健康学会から自動的に年会費が引き落とされない会員の皆様へ

令和 7 年度の年会費をお納め下さい。年会費は 1,500 円です。なお、2 年続けて年会費を納入しない正会員は退会扱いとさせていただきます。

【年会費振込先】郵便振替・口座番号：（当座）01000-2-28169 <加入者名：奈良体育学会>